

令和7年度 橋本地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和8年2月3日（火）午後6時から午後7時30分まで
- 2 場 所 緑区合同庁舎4階 集団指導室
- 3 市側出席者 本村市長、奈良副市長、鈴木都市建設局長、椎橋緑区長、佐藤緑区副区長、萱野市民局長
- 4 出席委員等 16人
- 5 傍聴者 3人
- 6 懇談会の要旨

概要	魅力あるまちづくりについて
内容	<p>橋本駅南口の開発は魅力あるまちづくりの要素としてたいへん重要である。リニア駅周辺の具体的な計画については公表段階に至っていない現状にある。しかし、安全・安心で環境と調和したまちづくりを円滑に推進していくためには、事業の構想段階から地域住民の合意形成を得ながら進めていく必要がある。</p> <p>そのために、橋本地区まちづくり会議は地域住民の代表として機能しなければいけないという責務を自覚している。そこで橋本駅南口の今後の具体的な計画策定のプロセスやスケジュールについて伺い、まちづくり会議としての役割について意見交換をしたい。</p> <p>この活動において行政と地域住民の実質的かつ実効的な協働関係が構築され、地域のつながりが広がり深まる効果を期待している。</p> <p>また、リニア駅設置に伴う県立相原高校の移転があり、その移転に伴う関連事業として、都市計画道路相原大沢線を県道508号（厚木城山）まで延伸すると地域へ説明があったが、相原高校及び相模原協同病院（以下「協同病院」という。）周辺の開発が終わった今、一向に動く気配がない。その後、市はどのように考えているか伺いたい。</p>
地区の取組状況等	<p>橋本地区自治会連合会において、年に1回リニア工事現場見学会を開催するなど情報連絡、情報共有の道を確認するべく務めている。</p>
市の取組状況等	<p>皆さまの机の上に「相模原市リニア駅周辺まちづくりガイドライン（以下、まちづくりガイドラインという。）概要版」及び本日発行した広報さがみはら（2月1日号）を配付させていただいた。橋本駅のまちづくりのイメージが両面に掲載されているため、ぜひご覧いただきたい。</p> <p>副代表からも、「構想段階から合意形成を進めることが重要である」との意見があったとおり、このまちづくり事業は、地域住民、事業者、関係者が同じ方向を向いて取り組む必要がある。2～3年で完成するものではなく、皆さまの意見を反映させながら進めていくため、今後も意見交換の機会を増やしていきたいと考えている。「リニアでつながる一步先の未来を叶えるまちはしもと」というコンセプトを掲げ、まちづくりガイドラインを令和5年11月に策定した。</p> <p>さらに、昨年9月には橋本駅南口地区の土地区画整理事業計画が国から認可され、まちづくりが本格的に進む段階となった。</p> <p>市民の理解を深めるため、令和7年11月にまちづくりガイドラインの概要版を作成し、今後は橋本地区まちづくり会議やワークショップ等を通じて意見を募</p>

	<p>り、橋本駅周辺が選ばれる街となるよう積極的に取り組んでいく考えである。</p> <p>県立相原高校の移転に伴う道路延伸については、神奈川中央交通、峡の原車庫から協同病院や相原高校を經由し、上大島交差点付近までを結ぶ構想路線が位置づけられている。</p> <p>この路線は、直ちに整備を行うものではなく、将来的な整備の必要性を検討する構想路線である。相原高校北側から鳩川手前までの約550メートルの区間については、過去に先行整備が計画されたが、令和3年度に市内の他の未整備路線と優先度を比較した結果、整備は令和13年度まで見送る判断がなされた。</p> <p>今後は、次期道路整備計画である令和14年度以降の計画策定の中で、改めて優先度の評価を行い、検討する予定である。</p> <p>以上の2つのテーマはいずれも非常に身近な課題であり、皆さまと意見交換を行うことが重要である。</p> <p>今後も引き続き、皆さまとの対話を進めていきたいと考えている。</p> <p style="text-align: right;">(奈良副市長)</p>
--	---

懇談内容	
<p>地区の発言</p>	<p>橋本駅南口の開発事業について、より具体的に伺いたい。</p> <p>1番目として、橋本駅南口の開発事業のマイルストーンの明確化です。現時点では、具体的な日程を示すことが難しい点もあると考えるが、関係者間の進行スケジュールを明確にすることは重要である。どのようなステップで進めていく予定であるのかについて、具体的な説明を求める。</p> <p>2番目として、合意形成の進行状況を把握することが重要である。計画を進めるにあたり、どのようなタイミングで、どのような合意を得る予定であるのか、その具体的なスケジュールについて説明を求める。</p> <p>3番目として、現在、何が決定されている段階であるのか、まだアイデア段階にとどまっているのか、具体的にどこまで決定しているのかについて説明を求める。</p> <p>4番目として、我々橋本地区まちづくり会議は、地域住民の代表として機能しなければいけないという責務を自覚している。市としても本会議に対して求めていることがあるはずである。その点について伺いたい。</p> <p>5番目として、橋本駅南口開発事業について、現体制はどのような構造になっているのか説明を求める。</p> <p>最後に、本事業対象区域外の事業計画について伺いたい。「橋本駅周辺整備推進事業における都市計画の決定及び変更」というのが、令和5年に公表されているが、現時点でここに書いてある以上のことが進んでいるのか、そのあたりについて伺いたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>ご質問いただいた点について、順に回答する。</p> <p>まず、（1番目及び2番目の質問）本事業のマイルストーン及び合意形成の過程について説明する。本事業は非常に長期間を要する事業であり、今後はスケジュール感を図示しながら議論していく必要があると考えている。</p> <p>現在の状況としては、JR東海が中央新幹線・（仮称）神奈川県駅の建設工事を進めており、その事業区域と重なる形で、UR都市機構を施行主体とする土地</p>

区画整理事業が国土交通大臣の事業認可を取得している段階である。

また、隣接するエリアにおいては、京王電鉄が駅位置の移設について中期経営計画の中で「今後検討していく」としており、将来的に事業区域内に入ってくる可能性がある。土地区画整理事業の事業期間は、令和17年度（2035年度）までを想定しており、この期間の中で、JR東海の工事がどの時点でどのように完了するのか、その後、京王電鉄の施設工事をどのタイミングで進めるのかといった、複数事業者間の調整を行いながら工事を進めていく流れとなる。基本的には、駅整備完了後に、土地造成、道路整備、駅前交通広場（バス・タクシー等の乗降空間）の整備を進めていくことになる。ただし、どのような空間構成とするのか、にぎわいの創出をどのように図るのかといった詳細については、現時点では決定していない。

今回、副市長から紹介のあったまちづくりガイドライン概要版により、市としてどのようなイメージを持って議論しているのかを、初めて具体的に示すことができた段階であると認識している。

未確定な部分が多いことから、今後は、皆さまとの議論を通じて方向性を形づくりながら、まちづくりを進めていきたいと考えている。先ほども述べたとおり、橋本地区まちづくり会議やワークショップ等を通じて、地域住民の皆さまの意見を伺いながら進めていくことが重要であると考えている。

次に、（3番目の質問）現時点で決定している事項としては、土地区画整理事業の施行主体がUR都市機構であること、道路や交通広場などの基盤施設を整備すること、都市計画決定がなされていること、令和7年9月25日に国土交通大臣の事業認可を取得していることが挙げられる。具体的には、道路の配置、幅員、事業区域内の大まかな構成といった骨格部分が決定している段階である。

次に、（4番目の質問）橋本地区まちづくり会議の役割は、地域課題を話し合い、より良いまちを目指すための場であると認識している。市としても、駅前のにぎわいづくりやまちの魅力向上について、継続的に皆さまと議論を重ねていきたいと考えている。これまで十分な情報共有や意見交換ができていなかった点については、この場を借りてお詫び申し上げる。今後は、より丁寧な情報提供と意見交換に努めていく考えである。

次に、（5番目の質問）本事業の事業構造についてであるが、神奈川県（相原高校移転事業）、JR東海（中央新幹線）、JR東日本、京王電鉄、東京電力（鉄塔関係）、UR都市機構（土地区画整理事業の施行主体）、国土交通省及び国道事務所など、多くの関係者と連携しながら進めている。また、相模原市役所においては、市長を本部長とするリニアまちづくり推進本部会議を設置し、部局横断的に検討を行う体制を整えている。

最後に、（6番目の質問）事業区域外については、平成28年に策定した広域交流拠点整備計画及びまちづくりガイドラインに基づき、核周辺ゾーンとして位置付けている。まずは土地区画整理事業を優先して進め、その進捗に応じて、市街地環境の保全、計画的な土地利用転換、土地の高度利用について検討していく考えである。ただし、現時点において具体的に決定している計画はない。

（鈴木都市建設局長）

<p>地区の発言</p>	<p>市からの説明について、丁寧で分かりやすい説明だったが、そうするがために内容がなかったと感じている。</p> <p>なぜ1番目から4番目の質問が必要だったかという点、例えば説明会や公聴会に呼ばれた際に、私たちが何を話せるのかという問題が生じるためである。事前にしっかりと勉強する時間が必要であり、そのためには、現時点で何が決定されており、今後どのように進めていくのかという詳細な情報が不可欠である。</p> <p>現時点で何が決定されているのか、また今後どのように進めていくのかについて、より明確に示していただきたい。</p> <p>今回の説明では、単に月や期間を示すにとどまり、実際の進行状況や決定事項の具体的な内容が見えなかった。この説明内容には不満を感じている。</p> <p>具体的な資料、すなわち紙にまとめた資料を提示するなど、より詳細で分かりやすい説明が必要だったと考えている。</p>
<p>市の発言</p>	<p>最初に、事前にお伝えすべき点について、十分にお伝えすることができていなかったことについて、まずお詫び申し上げます。</p> <p>現時点において、市に対して「まちづくりの方向性が見えない」という指摘を複数回いただいている。本事業は非常に長期間にわたる事業であるが、未決定事項が多いことから、具体的なイメージを示すことが難しい状況にある。</p> <p>そのため、まず現状として、まちづくりガイドライン概要版（6ページ）において、市としてのイメージを示したところである。これにより、どのような形を目指しているのかについて、少しでも具体的に理解していただければと考えている。</p> <p>現在決定している事項としては、道路の幅員や大まかな形状については都市計画として決定しているが、その詳細については、現在内部で議論を進めている段階である。今後は、その進行状況について、しっかりと説明する機会を設けることが必要であると考えている。</p> <p>どのような施設配置を行うのか、実際にどのような形状で整備を進めていくのかといった細かな点については、現時点では決定していない。</p> <p>現在、これらの詳細については内部で議論を進めている段階であり、今後はその進行状況を適切に説明する機会を設ける必要があると考えている。</p> <p style="text-align: right;">（鈴木都市建設局長）</p>
<p>地区の発言</p>	<p>現在の状況について、議論の結果を聞きたいのではなく、そのプロセスを説明してほしいと考えている。</p> <p>公共事業における住民参加の在り方や、国交省が指針化している住民参加の手続きに関するガイドラインに則って市はどのようなステップで取り組んでいるのか伺いたい。あるいは国土交通省が発行しているガイドライン等、住民参加に関する基準や明確な指針が存在するのか、それとも今後新たに作成していくのかを知りたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>国においては、道路整備に関して、構想段階から住民の意見を交えた対話を進めることが推奨されている。この考え方を念頭に置きながら、事業を進めている部分がある。</p> <p>都市計画決定の段階においては、道路整備計画案に関して住民の意見を取り入れた上で、都市計画審議会に諮り、決定を行った経緯がある。ただし、都市計画</p>

	<p>の進行過程全体において、住民参加の具体的なタイミングや手続きについて、国から詳細なガイドラインが示されているわけではない。</p> <p>これまで、地域住民の意見を聴取する場が十分に設けられていなかった部分があったと認識しているが、今後はその点を十分に踏まえ、対応していきたいと考えている。</p> <p>現段階において、住民参加の進め方についての詳細なガイドラインは存在していないが、今後は地域の皆さまの意見をしっかりと反映させながら、事業を進めていく方針である。</p> <p style="text-align: right;">(鈴木都市建設局長)</p>
地区の発言	<p>先ほど出された質問については、今後、まちづくり会議の中で議論を行い、質問として整理した上で市に送付する予定である。その際には、まちづくり会議の場において、市から説明を行っていただきたいと考えているが、その点についていかがであるか。</p>
市の発言	<p>ぜひそのように進めさせていただければありがたいと考える。</p> <p style="text-align: right;">(鈴木都市建設局長)</p>
地区の発言	<p>道路の問題について、今回初めて「構想路線であるため整備を行わない」という回答が示された。担当課からは、都市計画決定しなければ整備ができないと個別に聞いていた。</p> <p>相原高校と協同病院が移転してくる時に行われた内出中学校の体育館での説明会において、相原高校と協同病院の間の道路を、県道厚木城山線まで整備するとの説明があった。そのときに市の担当者も同席していたが、道路整備について否定的な話が出なかった。その後も説明会があるたびに道路整備について確認をしたが、市からの了解が得られないようで、途中からその説明が行われなくなり、現在に至っている。相原高校と協同病院は、両者の間の土地を道路用地として確保しており、地域としては、当該道路は整備されるものと認識してきた。</p> <p>そのため、相原高校と協同病院の間の道路について、車両通行はできなくてもいいので、せめて自転車及び歩行者専用道路として確保するよう周辺自治会総意で県教育委員会に要望を行い、県からは市と協議し、合意を得ることを条件に了承が得られた経緯がある。その後、市に確認したところ、当時、当該道路の両側に2メートルのフェンスがあり、安全対策上問題があるとの理由で合意が得られなかった。現在、協同病院の南側の開発も終わり、当該道路については何の支障もなくなった。</p> <p>しかしながら、市からはその後の説明がなく、進行状況が不透明なままとなっており、計画変更に関する説明も十分でないと感じている。</p> <p>現在、さがみりハビリテーション病院（以下、リハビリテーション病院という。）の隣でデータセンターの開発が進められており、地域と開発業者の間でリハビリテーション病院用の道路を、歩行者や自転車が協同病院まで通行できる方向で話が進んでいるが、この道路は、市が管理する正式なものではないため、万が一事故が発生した場合、十分な対応が取れないのではないかと懸念がある。今回初めて、市から「構想路線であるから整備しません」という回答があり、今までの市の説明とは異なる内容だった。</p> <p>地域としては、なぜ異なる説明になったのか、その説明をしてほしい。</p> <p>また、二本松小学校入口交差点も、交差点改良事業を実施していたが、この事</p>

	<p>業で交差点の隅切りが4か所整備されるものと思っていたが、最終的には3か所整備したところで事業が止まっており、その経緯について地域への説明が全くなかった。そのため、地域としては、これから整備してくれるものとの認識である。</p> <p>今回この懇談会を通じて伝えたいのは、市は事業を始めるときには地域に対してすごく説明をしてくれるが、途中で変更するときや事業をやめるときに十分な説明を受けていないことから、今後同様の事態を防ぐためにも、地域と行政との間で定期的に説明及び意見交換を行う場を設ける必要があると考えている。</p> <p>今後、橋本駅南口の周辺道路の整備でも社会情勢の変化などで事業内容が途中で変更または中止される場合には、単なる市の決定で終わるのではなく、地域に対して定期的に説明の場を設け、まちづくり会議を活用するなどして、行政と地域が密に連携できる仕組みを構築することを提案する。</p>
<p>市の発言</p>	<p>これまでの説明が不十分だったことについて、改めてお詫び申し上げる。特に、道路整備に関する進行状況や計画についての説明が足りていなかったことを反省している。</p> <p>過去に、平成11年の都市計画マスタープランにおいて、相原高校と協同病院の間の道路を構想路線として位置付け、平成26年には、道路延伸やアクセス向上を見越して、県と協議を重ねていたという経緯がある。</p> <p>しかし、具体的な説明が地域に届いておらず、令和4年に整備計画に含まれていないと市の回答があり、地域にとっては突然の変更に感じられたことが問題となったと認識している。</p> <p>現在、リハビリテーション病院を含む道路整備の進行により、自転車と歩行者が通行できるルートを確保する調整が進められているが、正式な道路整備計画としては未確定な部分もある。市の道路整備事業では、25路線の整備が優先されており、その中で特に重要な部分が優先されており、二本松小学校入口交差点など既に用地が確保されている部分もあるが、残っている箇所については用地交渉が進んでいないため、進行が止まっている。</p> <p>地域住民への説明を十分に行い、定期的に進捗を報告するため、まちづくり会議を通じた情報提供を検討している。</p> <p>これにより、地域との対話を深め、地域に合わせた対応を進めていきたいと考えている。</p> <p>今後も、随時変更や新しい進捗があれば、区長やまちづくりセンター所長を通じて地域に報告していきたいと考えている。 (鈴木都市建設局長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>奈良副市長及び鈴木都市建設局長には、厳しい意見が出る中においても、丁寧な説明をいただき、大変感謝している。</p> <p>私自身、厳しい意見を述べる立場ではあるが、これは過去の姿勢を追及するためのものではなく、今後どのように改善していくかを議論するための場であると考えている。私たちは、同じ相模原市橋本地区をより良くしていこうとする仲間であるという前提に立ち、お話をさせていただく。</p> <p>私は今年から橋本地区まちづくり会議の委員を務めることとなったが、この会議がどのような位置づけにあり、何を求められているのかを改めて確認することが重要であると考えている。</p>

	<p>前回のまちづくり会議でリニアまちづくり課からガイドライン概要版について説明を受けた際、委員として事前に説明や相談を受けたという認識がなく、そのことが本日の質問のベースにあると思っている。これを機会に、今後は事前に十分な説明や相談の機会を設けていただきたい。</p> <p>また、私自身、東京駅や高輪ゲートウェイ駅などのプロジェクトに関わってきた経験から、行政側が情報を出すタイミングが難しいことは理解している。その上で、今回の会議を契機として、より積極的な協議や意見交換を行い、市とまちづくり会議とが手と手を取り合って、橋本をどうしていくか考えていきたい。</p> <p>以上は私個人の意見であるが、今後も積極的な意見交換と協力をお願いしたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>まちづくり会議は、自主的に課題を見つけ、解決に向けて話し合う場というのが基本であると考えている。ただ、先ほどからお話が出ていたように、機能としてもっと生かせるのではないかという点については、特段これを妨げるものはないと考えており、まちづくり会議をより効果的に活用することが望ましいと感じている。</p> <p>少し前に市民の方とお話したときに「役所はキャッチボールをしてくれない」と言われたことがある。実際には、市がボールを投げ返したつもりだが、実は市がボールを持ったまま、結果として対応が滞り、そのままになってしまうことがある点については、反省すべき点であると考えている。</p> <p>安藤副代表のお話についても、市が決定した内容について責めているのではなく、市の決定に至る経過について地域への説明責任を果たすという、地域へボールを投げ返さないといけないという話であると受け止めている。</p> <p>今後は、まちづくり会議の場を活用し、地域の懸案事項や進行中の課題について、市担当課からの説明や進捗の報告を行う機会を設け、まちづくり会議を通じて地域の代表者である皆さんとキャッチボールを行う場として、まちづくり会議を意欲的に活用していくことが重要であると考えている。 (椎橋緑区長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>まちづくりガイドライン概要版（6ページ）に掲載されている交通広場の部分について質問する。交通広場の図の中に、周囲を囲うように描がかれている道路と、その内側にUターンする形状の道路が描かれている。この道路は何を示しているのかについて説明を求める。</p>
<p>市の発言</p>	<p>現在、交通広場の形状については、まだ固まっていない部分もあるが、基本的にはバスの通行と一般車両のルートに分ける形で設計している。</p> <p>最も外側には、バスが回る動線を配置する予定である。内側の部分については、一般車両の交通ルートに分け、さらにバスと一般車両の動線を完全に分離するための調整を行っている。図の右下に示されている緑色の土地については、一般車両の乗降場または駐車場として使用する予定である。公共交通（バス・タクシー）と一般車両を明確に分離し、安全な動線で運用できるよう設計している。</p> <p>Uターン形状を採用している理由は、交通安全を確保するためである。公共交通機関と一般車両が交錯する箇所を極力減らし、交通安全を確保することを目的としている。特に、バスやタクシーが頻繁に行き交う場所に一般車両が進入しないよう、交通管理者である警察と協議しながら整理を進めている段階である。</p> <p>現在、設計は進行中であり、詳細な図面や計画については、今後の会議の場で示しながら、議論を進めていく予定である。 (鈴木都市建設局長)</p>

<p>地区の発言</p>	<p>現在計画されている「交通広場」という名称について、一般市民の認識には誤解が生じる可能性があると感じている。「交通広場」という名前を聞くと、一般市民は広場ができると思いがちで、特に、橋本地域では広場が不足しており、この名前が広場の整備を期待させる原因になっている。</p> <p>例えば、機関車が置いてある新橋駅前の広場のような場所を想像する市民が多いと考えられる。「交通広場」が、人々が集うような広く開かれた場所という広場ではなく、バス乗り場や交通機関に関連した施設である場合、市民の期待に応えるためにも、より適切な名称に変更することが望ましいと考える。</p>
<p>市の発言</p>	<p>昨年の夏頃、子ども議会において中学生から「交通広場とは何か」という質問を受け、同様の疑問を持たれていることを認識した。現時点では、「交通広場」の機能について、市民に十分理解されていない状況であると認識している。</p> <p>今後、市民に対して説明を行う際には、「交通広場」の機能が正確に伝わるよう、言い回しや名称について工夫する必要があると考えている。</p> <p>具体的には、タクシー乗り場や一般車両の乗降場が含まれる施設であることが分かるよう、適切な表現について議論を行い、その内容を踏まえて説明を進めていく考えである。 (鈴木都市建設局長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>駅前の送迎場所は、市の品位が現れる重要な空間であると考えている。</p> <p>特に橋本駅南口では、京王ストア前の横断歩道上やコンビニエンスストア前などに不正に停車する車両が見受けられ、結果として、そのような行為を行う者が利を得て、正規のルートを通行する者が不便を強いられている現状がある。</p> <p>この状況は、市の品位が問われる問題であると認識している。</p> <p>不正駐車を防止するためには、明確で実効性のある対策が必要である。不正駐車に対する取り締まりを強化することや、物理的な障壁を設けて停車できない構造とするなどの対策を検討すべきである。</p> <p>また、送迎動線が煩雑である場合、利用者が利便性を優先し、交差点付近で長時間待機する車両が増加する懸念がある。特に雨天時や寒冷時には、早い時間から車両が待機し、周辺道路に渋滞が発生する可能性が高まる。その結果、近隣道路の交通環境が悪化するおそれがある。</p> <p>このような問題を未然に防ぐためにも、計画段階において十分な検討を行い、実効性のある対策を講じていただきたい。</p> <p>今後も引き続き協力しながら、より良い駅前環境の実現に向けた取組を進めていきたいと考えている。</p>
<p>市の発言</p>	<p>駐停車禁止の措置を含む問題については、警察との協働が重要であると考えている。そのため、今後は警察と協議を行いながら、適切な形で問題に取り組んでいくべきであると認識している。</p> <p>地域や施設の特性に応じた取組を進め、実効性のある改善策を実現できるよう、引き続き関係機関と連携しながら対応していきたいと考えている。 (鈴木都市建設局長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>昨年も全く同じ質問を行ったが、橋本駅北口には広場がなく、子どもたちが自由に遊べる場所が全くない。</p> <p>できれば橋本駅南口の開発において、災害時の避難場所としても活用できるような、遊具を設置しない「本当の広場」を整備してほしいと提案する。</p>

	<p>具体的には、子どもたちが自由に遊び、用途を限定せずにさまざまな活動ができるスペースを設けてほしいと考えている。</p> <p>仮に、この広場が災害時の避難場所としても利用できるようになれば、地域にとって極めて重要な拠点となり、大きな役割を果たすものと考えている。</p> <p>ぜひ実現に向けて検討を進めていただきたい。地域にとって大変価値のある施設になると確信しており、前向きな対応をお願いします。</p>
<p>市の発言</p>	<p>現在、土地区画整理事業の中で、公共のための土地を確保する取組を進めている。具体的には、道路の利用地や交通広場の用地を確保しているところである。</p> <p>また、広域交流ゾーンの少し先に、小規模公園用地を確保しているが、いただいた提案については、現時点で確保している公共用地の範囲内で実現することは難しいという認識である。</p> <p>そのため、今後は、公共空間をどのように拡大し、整備していくのかについて、継続して議論を行っていく必要があると考えている。</p> <p>今後開発が進められる京王橋本駅周辺の駅まち一体けん引ゾーン、広域交流ゾーン、複合都市機能ゾーン、ものづくり産業ゾーンは、基本的に地権者が主体となって開発を進めることになる。</p> <p>市としては、どのような街を形成していくのか、どのような建物や施設を誘致していくのかという視点が重要であり、その手法については今後の重要な検討課題であると認識している。</p> <p>民間主体の開発に対して、市としてどのように誘導を促していくかが課題であり、例えば税制措置や各種行政手法を活用しながら、民間との連携を図っていく方法について検討していく必要がある。</p> <p>市としては、これらの課題について今後さらに議論を深め、解決策を模索していかなければならないと考えており、引き続き、ご支援を賜りたい。</p> <p style="text-align: right;">(鈴木都市建設局長)</p>

<p>市長の感想等</p>	<p>本日は限られた時間の中で多くの貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。いただいたご意見は真摯に受け止めていく。市が持つ情報は市民の財産であり、できる限り皆様にお伝えし、対話を重ねながら一緒にまちづくりに取り組んでいきたいと考えている。行政任せでは良いまちはできないとの認識のもと、今後も職員が地域の会議等へ参加し、継続的に意見交換を行っていく。</p> <p>橋本地区のまちづくりについては、広報で一定の方向性を示したが、皆さまの中には不安と期待の双方があると認識している。今後も情報提供を行いながら、皆さまの意見を伺い、その声を形にできるよう努めていく。</p> <p>構想路線である都市計画道路相原大沢線の延伸については、過去に整備を行わなかった経緯がある一方、その後の要望等により検討している状況である。</p> <p>現時点で整備の可否を決定しているものではなく、これまでの経過を整理した上で、やる・やらないも含めて精査していく。</p> <p>道路整備については、市内の移動手段確保とネットワーク化が重要な課題であると認識している。今後、令和14年度からの（仮称）第3次相模原市新道路整備計画における位置付けについても、地域との対話を踏まえながら検討を進めていく。</p>
----------------------	---

交通広場については、市民に分かりやすい説明の必要性を感じており、地下空間の活用（駐車場やバスターミナル等）の可能性も含め、庁内で検討している。方向性が定まっていない事項についても、見える形で情報共有を図りながら検討を進めていきたい。

地域の居場所や集会機能については、施設配置の制約を踏まえつつ、新たな空間活用の可能性を検討していく。

橋本地区は大きな可能性を有しており、将来世代に引き継げるまちづくりを、地域の皆様とともに進めていきたい。

本日いただいたご意見は、今後の施策検討に活かし、引き続き対話を重ねながらまちづくりを進めていく。

(本村市長)